

平成26年度教育委員会点検・評価について

平成27年10月
雲南市教育委員会

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(第27条)の規定に基づき、平成26年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、作成・公表するものです

I 平成26年度教育委員会の活動状況

1 雲南市の目指す教育

○雲南市の目指す教育の基本目標を「ふるさとを愛し 心豊かでたくましく 未来を切り拓く 雲南市の人づくり」とし、

1. 個性・能力を生かし、個人として、社会の一員として生きる基盤づくり
2. 学社連携・協働による質の高い雲南市教育の実現
3. 学校間、校種間の「縦」、「横」の接続と連携を大切にした学校教育の充実
4. 安心・安全な教育環境の実現と楽しい学校づくり
5. スポーツ・文化活動の推進による豊かな生活

をめざし、6つの基本的な方向を定め、6つの重点施策に基づき事業を実施してきました。

○本年度は、平成22年度に策定した「第2次雲南市教育基本計画」の最終年度となります。

○それに伴い、教育基本法第17条第2項に規定に基づき雲南市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次雲南市教育基本計画」（以下基本計画書）を策定しました。策定にあたっては、キャリア教育の一層の推進、全ての人にとって学びやすい環境の構築、英語教育・英語活動の充実、幼児教育・保育の充実、小中学校との連携強化の4つの視点を踏まえた計画となるよう諮問しました。基本計画書の仕立て方として基本的な考えと取り組みに分けて記載し分かりやすくなっています。今後学校等への説明の取り組みをしていきたいと考えます。

○併せて、これまで教育基本計画に含めていた「雲南市スポーツ振興計画」、「雲南市子ども読書活動推進計画」を独立させ策定しました。今後は、読書活動推進のため、学校と図書館との情報交換や研修の機会を設定することが必要と考えます。

2 教育委員会の運営・活動

○平成26年度の教育委員会の運営に関しては、教育委員会と事務局との連携を重視しています。会議については、地域の様々な教育行政課題に迅速かつ的確に対応できるように、月1回の定例会及び1回の懇談会の開催し、必要に応じて臨時会を開催しました。様々な立場の委員が意見を言うことによって、「教育」の専門家だけの判断に偏ることなく、社会の常識や住民ニーズが反映されるよう努めたいと考えています。

○教育委員会会議以外にも、各種式典行事等への参加のほか、昨年度から行った小中学校への学校訪問に幼稚園・幼児園を加え、授業や保育を参観させていただきました。

本年度は①小学校英語活動の授業参観

②幼稚園・幼児園の保育活動参観

③特別支援教育の授業参観

④「夢」発見プログラムに係る活参観

を訪問テーマに学校訪問を行い、学校長との意見交換を実施しました。

それを基に、懇談会で委員の意見交換を行いました。

主な感想、意見は次のとおりです。

①小学校英語活動について、研究指定の小規模校においては、指導体制の充実もあり細やかな対応がなされていました。大規模校で同様の対応を行うには、地域の力等の支援も必要になると考えます。どの学校でも、子どもたちは、楽しんで活動をしていました。

②特別支援教育について、学校長の強いリーダーシップにより特別支援学級が学校教育の全体の中に位置づけられていました。「特別支援を必要とする子どもが過ごしやすい学校はみんなが過ごしやすい学校である」ことを実感しました。一方で支援を要する児童生徒は増加しており、教科担当もできる専門の支援員の配置の増員が望まれます。

③幼稚園・幼児園では、心身の発達に応じた教育や保育が地域の人的・物的環境を活用して行われ、子どもたちがのびのびと活動していました。今後は、認定子ども園移行への着実な推進が必要と考えます。

○学校訪問の大きなねらいは、「子どもたちの実態を見る」ことにあります。そこには、その学校の教育が自ら表れるからと考えます。今後とも、子どもの姿を通して望ましい教育環境の整備、充実について議論していきたいと考えます。

3 キャリア教育の充実

○一貫した教育理念に基づく教育の充実を期し、平成21年度から本格実施された「『夢』発見プログラム」（改訂版平成25年3月発行）を中心として、「キャリア教育」を重要施策として位置付け、その中で学校教育、社会教育、家庭教育それぞれの役割を明確化すると同時にその協働を一層推進するよう取り組んできています。

○さらに、「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」が2年目となり、保・幼・小・中に加え、高校版の「夢」発見プログラムの策定への取り組みを進めました。

○本年度から、土曜日の活用事業の一環として、新たに外部人材の活用を行いました。キャリア教育を充実するために、要所要所でのきっかけづくりをしてきていますが、拡充するためには、家庭、地域が一緒になって取り組める仕組みづくりが必要と考えます。

4 評価

○平成26年度版「雲南市の教育」の6つの重点目標施策に掲げた事務事業について評価し、各目標施策の執行状況について総括的評価を行いました。

5 資料

○平成26年度の教育委員会の会議・活動としては資料6頁のとおり行いました。

II 平成26年度版「雲南市の教育」に基づく事業の執行状況

目指す方向

1. 社会全体で教育の向上に取り組む。

重点施策

学校・家庭・地域・行政の協働を推進し社会全体の教育力を向上させる。

総括的評価

- 計画した事務事業は、個別評価表のとおりすべて実施しました。今後も、達成状況を踏まえ、今後の方向性を視野に入れて継続、拡充するよう努めます。
- 本年度からNPO法人、社会人組織（アラーレ）との協働で土曜日を使った学習が展開されました。外部人材の活用について、結果として市外社会人の活用が多くなっていますが、今後、地元の社会人を積極的に活用する取り組みの展開を希望します。
- 「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」において雲南地区連携推進連絡会が発足したことにより、異校種間や地域事業所との会議の場が増え、それぞれの立場による考えを共有できる機会となりました。これにより、市全体で一体となって子どもたちを育てる気運が高まったと思います。
- 「教育フェスタ」を総合的な教育施策の成果と検証の場として開催しました。多くの方々に参加いただきました。今後は、より幅広い年齢層に参加いただき、自分たちの関わっていることが、キャリア教育につながっていると感じていただけるような取り組みを希望します。

目指す方向

2. 一貫した教育理念に基づく学校教育・社会教育の充実

重点施策

保・幼・小・中・高の連携・接続による特色のある学校教育を推進する。

総括的評価

- 計画した事務事業は、個別評価表のとおりすべて実施しました。今後も、達成状況を踏まえ、今後の方向性を視野に入れて継続、拡充するよう努めます。

○雲南市学校自主企画事業「学校夢プラン」について補助メニューの見直しが行われ、学校間の連携を促すものとなりました。子どもたちの「生きぬく力」の育成につながるものであり、今後も継続していく必要があると考えます。

○本市の特色である、キャリア教育推進プログラム「『夢』発見プログラム」は、保・幼・小・中の連携・接続について見直し改善を図ってきています。また、高校を加えた取り組みも進められました。学校・家庭・地域・行政の連携・協働により一体となって進めていくよう努めています。

○キャリア教育のめざす、「一人一人の社会的・職業的自立へ向け、基盤を養うとともに、人としての生き方について考え夢に向かってたくましく生き抜く力を、学校教育、社会教育の協働によって育てる教育」を推進することは、本市の教育基本目標「ふるさとを愛し 心豊かで たくましく 未来を切り拓く 雲南市の人づくり」につながる重要な教育施策であり、今後も充実・発展させていきます。

○「夢」発見プログラムの具体的事業である幸雲南塾 in さんべ事業は、年々事業内容に改良を加え、高校生、大学生がスタッフに加わり活動事業に厚みが増しました。さらに、この活動が「教育フェスタ」へとつながったことは、年間を通した取り組みとなり今後の発展が期待されます。

○学校司書を5校に配置し、昨年度比2名の増員となりました。読書活動の推進や授業の資料収集など、図書館教育の充実に大きな役割を果たしています。また、図書ボランティアも18校に配置しました。
今後は、学校司書、司書ボランティアと図書館司書との情報交換や研修の機会を設定することが必要と考えます。

目指す方向

3. 一貫した教育理念に基づく学校教育・社会教育の充実

重点施策

学校の組織力の向上と教育内容・方法の充実により、子どもたちの「社会を生きる力」を育む。

総括的評価

○計画した事務事業は、個別評価表のとおりすべて実施しました。今後も、達成状

況を踏まえ、今後の方向性を視野に入れて継続、拡充するよう努めます。

○本年度より、小学校3年生、4年生の英語活動を実施しました。学校訪問でテーマの一つとして、現場の様子も見させていただきました。子どもたちが見られ慣れていきいきとしている印象を受けました。学校の反応も8割が満足しているとの回答でした。今後スケジュール調整や円滑なコミュニケーションの実施等改善すべき点への取り組みが必要と考えます。

○「教育支援コーディネーター（教育委員会職員）（地域住民）」「社会教育コーディネーター」の学校配置は雲南省の独自システムであり、この制度を活かすことが教職員の負担軽減はもとより、学校・家庭・地域・行政の協働による教育の推進につながると考えます。

○雲南省独自のキャリア教育を推進するために27年度実施に向けた検討を開始しました。一つには学力向上と社会を生き抜く力を育む雲南省教育の推進です。これまで「夢」発見プログラムによるキャリア教育を実施してきました。本年度から展開している土曜学習を推進するため、教育NPO法人との連携・協働を展開するものです。27年度以降の着実な実施が期待されます。

○不登校児童・生徒への支援については、これまで様々な施策を展開してきました。これについても、教育NPO法人との連携・協働を展開するものです。不登校等課題を抱える子どもたちの居場所づくりを目指し、閉校校舎を活用した事業展開を図るものです。27年度以降の着実な実施が期待されます。

○近年増加傾向にある特別な支援を必要とする子どもへの早期からの支援として、就学前の子供に対して取り組みが開始されています。早期対応の重要性から考え、幼児期専門部局の設置に向けて検討が必要と考えます。

○地域全体で学校を支援することは、教職員の負担軽減を図るとともに、地域の方々の力を学校支援へ向けていただくことにより地域の教育力の向上と学校と地域で協働して子どもを育てる意識の醸成につながり、有効な施策と考えます。平成26年度も延べ2万人余りのボランティアの皆さんに学校を支援していただいています。今後も継続・拡充していく必要があると考えます。

目指す方向

4. 子どもたちの安全・安心の確保と教育環境の整備

重点施策

安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を整備する。

総括的評価

○計画した事務事業は、個別評価表のとおりすべて実施しました。今後も、達成状況を踏まえ、今後の方向性を視野に入れて継続、拡充するよう努めます。

○これまで普通教室の猛暑対策については、抜本的な対応ができていませんでしたが、本年度より年次的に学校のエアコン設置を行いました。次年度以降計画的な整備を望みます。

○幼稚園、小学校、中学校の施設には耐用年数が近づいたものもあり、計画的に改修、更新などの整備計画の策定を進めたいと考えます。

○本年度よりすべての学校給食センターにおいて調理業務を委託しました。学校給食には安心・安全で質の高いサービスを求められています。委託先には引き続き安心・安全な給食の提供を求めます。

目指す方向

5. 生涯スポーツの推進と歴史・文化の継承

重点施策

文化財行政の充実と賑わいあるまちづくり。

生涯スポーツの推進と幼児期の遊びと運動の充実。

総括的評価

○計画した事務事業は、個別評価表のとおりすべて実施しました。今後も、達成状況を踏まえ、今後の方向性を視野に入れて継続、拡充するよう努めます。

○市内には数多くの文化財、遺跡が存在します。引き続きこれらの適切な管理と保存、公開を望みます。